



ツツシ

1
Jan.
2021

地域のみなさまへ



>> 脳卒中について

「脳卒中のサイン」を見逃すな!

- ◆ 脳卒中の予防について
- ◆ 治療は時間との勝負!

脳ドック

脳卒中・認知症を見逃さないための脳ドック



- ① **スタンダード脳ドック**〈脳卒中が気になる方へ〉
MRI・MRAによる画像診断を主検査とし、脳疾患の発症や進行の評価を行います。
- ② **専門医脳ドック**〈脳神経外科医師の診察を御希望の方へ〉
専門医が症状に即したアドバイスをし必要に応じて当院や医療機関への紹介を行います。
- ③ **メモリードック**〈認知症が心配の方へ〉
認知症診療専門医が認知機能を評価、予防をアドバイスします。

項目	料金・検査実施日※土日祝・年末年始を除く
①スタンダード脳ドック	27,500円(税込) 月～金曜日 午後12時30分～
②専門医による脳ドック	31,900円(税込) 金曜日 午前 8時30分～
③メモリードック	36,463円(税込) 月・水曜日 午後12時15分～

【検査内容】問診・診察・頭部MRI・MRA検査・頸部MRA検査
※③のみ認知症テストあり
【ご予約・お問い合わせ】6F 人間ドック室 (TEL:079-451-8703)まで

がん相談支援室のご案内

仕事と治療の両立支援に取り組んでいます。



「働き方改革」の実現に向けて、医療機関では治療と仕事の両立支援が盛んに取り組まれています。当院でも兵庫県社会保険労務士会と連携して、月1回の無料相談会を開催予定です。仕事に関する法律の専門家にお気軽にご相談できますので、仕事と治療の両立に悩まれる方がおられましたら、是非ご利用ください。

対象	ご自身の治療や、家族の介護・育児があり、仕事との両立に悩んでおられる方
日時	毎月 第2水曜日 13:00～16:00
申込	完全予約制。079-451-5500(代表)にご連絡いただき、「患者支援センターで両立支援相談会の予約がしたい」とお伝えください。

新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

最新の情報はHP掲載のお知らせをご確認ください。

発熱等があれば、まずは地域の医療機関(かかりつけ医等)に電話でご相談ください。かかりつけ医などが無く、相談先に迷う場合は、以下へご相談下さい。

発熱等受診・相談センター
(加古川健康福祉事務所内)

TEL:079-422-0002(平日9時00分～17時30分)

新型コロナ健康相談
コールセンター

TEL:078-362-9980(平日・休日 24時間)

募集 詳しくはホームページをご覧ください。

ボランティア

外来案内、縫製や院内行事などのお手伝いをして下さっています。



加古川中央市民病院 ボランティア

検索

採用情報

資格、経験不問の職種もあります。まずはお問い合わせ下さい。



加古川中央市民病院 採用情報

検索

健康教室、各セミナーは現在中止しています。再開につきましてはHPにてお知らせいたします。



受付時間

受付: 月曜日～金曜日
8:00～11:00

診療: 月曜日～金曜日
8:45～17:00

休診: 土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始12月29日～1月3日

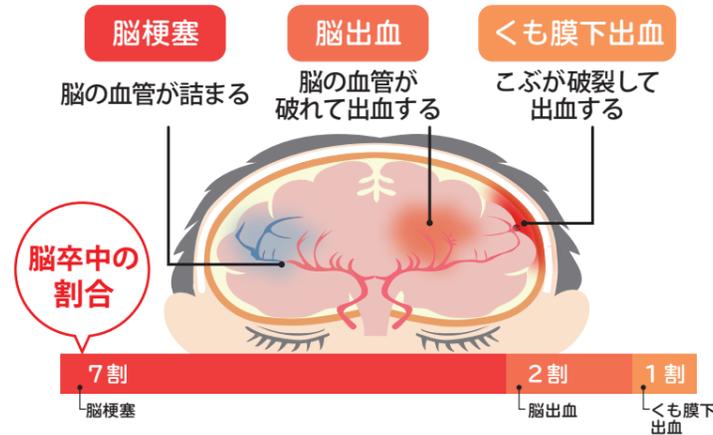
地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

〒675-8611
兵庫県加古川市加古川町本町439番地
TEL:079-451-5500(代表)
https://www.kakohp.jp/



脳卒中

大きく分けて3タイプ



脳卒中の予防には生活習慣病の治療が大切

脳が、突然(卒然)何かの中に倒れるように倒れて意識を失い半身麻痺になることから脳卒中という言葉ができましたが、病気の原因は脳ではなく血管です。脳卒中には、脳へ行く血管が詰まり脳細胞が死んでいってしまう脳梗塞と、脳の血管が破れて出血をおこす脳出血やくも膜下出血があります。年齢と共に血管の壁にコレステロールやカルシウム、老廃物などが溜まって血管の内腔が狭くなって詰まったり(動脈硬化)、血

特集 脳卒中について

「脳卒中のサイン」を見逃すな!

冬に多い病気とされる心臓や血管の病。冷たい空気に触れると、血管が収縮するため血圧が上がり、脳卒中発症のリスクが高まります。発症後すぐに治療できれば救命率が上がり、後遺症も軽くなるケースがありますので、異変に気が付いたら直ちに医療機関を受診しましょう。

脳神経内科 主任科部長 石原 広之



脳神経内科 主任科部長 石原 広之

管自体がもろくなって破れたりします。また血管の弱いところが餅のように膨れると脳動脈瘤というコブが出来たりします。高血圧や糖尿病、高脂血症など生活習慣病といわれる病気を持っている方、タバコやアルコール量が多い方は動脈硬化になりやすい傾向があります。まずは、かかりつけ医で生活習慣病の治療をしっかり受けていただくことが、脳卒中の予防として大切です。また、脳梗塞の原因として、高齢化社会と共に増えている心房細動という不整脈にも注意が必要です。動悸などの症状があれば、かかりつけ医で心電図の検査を受けましょう。

うなものがあるでしょうか。脳梗塞と脳出血で現れる症状には大きな差はありませんが、脳のどの部分に障害が起きたかによって出てくる症状が異なります。大脳がやられると、体の半身が動かなくなったり、顔がゆがむなどの麻痺症状と、ろれつが回らない、言葉が出ないなどの言語障害が現れます。脳幹や小脳に障害が起こると、ふらついて手足がうまく動かないなどさまざまですが、最もひどいときは意識がなくなり、くも膜下出血については、突然バッドで殴られたような激しい頭痛が代表的な症状です。

これらのような症状があれば、すぐに医療機関に相談もしくは救急車を呼びましょう。その際につけてきたかという時刻を伝えてください。症状が出てからどのくらい時間が経っているかで、治療法が変わります。もちろん早ければ早いほど回復する可能性が高まります。脳梗塞に対しては、発症4時間30分以内であれば詰まった血栓を強力に溶かす薬を使うことができます(トPA療法)。出血という副作用がありますが、日常生活に復帰し、後遺症も軽くなる場合があります。大きな血栓の場合

当院での治療の特徴

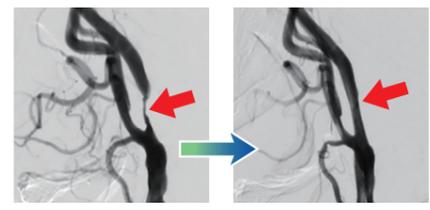
脳神経外科 科部長 木戸 慶司

脳卒中治療において血管内手術(カテーテル手術)は重要な役割の一部を担います。脚の付け根や肘の血管からカテーテルを挿入し、脳や頸部の病変部まで到達して治療します。カテーテル手術は通常の外科手術に比べて大きく皮膚を切ることなく施術でき、手術時間が短く、多くの場合で局所麻酔下に施術可能など利点が多い方法です。体への負担が少ないとはいえリスクを伴うこともあるため、厳密に適応を判断して施行します。

ここでは代表的な2つの治療を紹介します。

頸動脈ステント留置術

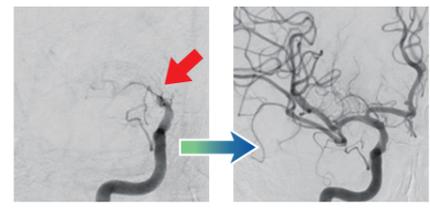
動脈硬化によって細くなった頸動脈を広げて脳梗塞を予防します



動脈硬化によって血管が細くなった状態
ステントを留置して血流が改善

脳血栓回収術

血管に詰まった血栓を摘出して脳血流を再開させます



血栓が詰まって血液が流れていない状態
血栓が取りのぞかれ血流が再開

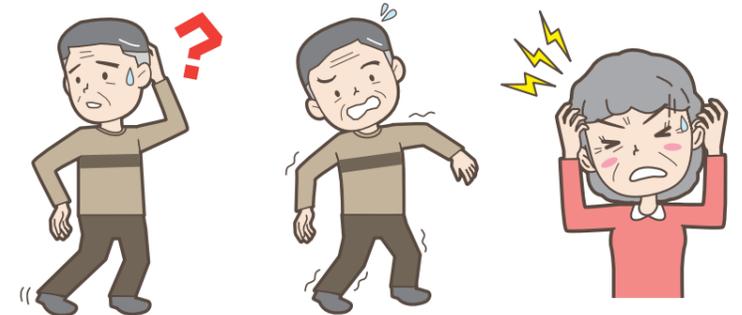


取りのぞかれた血栓

こんな症状が現れたら 脳卒中かも!



顔がゆがむ 片腕に力が入らない ろれつが回らない



片脚を引きずって歩く 急なふらつき 突然の激しい頭痛

合はトPA治療でも溶かすことができないことがあり、カテーテルを使った脳血栓回収術を行います。発症から時間が経ちすぎるとこのような治療ができなくなります。その場合は、血液をサラサラにする薬や脳保護薬、リハビリテーションで機能回復を図ります。

脳出血は、止血剤と血圧を下げる治療が中心となります。大きな出血の場合は手術により血液の塊を除去することもあります。くも膜下出血は脳動脈瘤が原因となっており、手術やカテーテル治療で脳動脈瘤を治療します。

当院では24時間、365日の体制で、脳神経内科と脳神経外科が連携して脳卒中に対応しています。

緊急時には救急車 119番

気になる症状があるときは
かかりつけ医の先生にご相談ください



当院ではしっかりと
かかりつけの先生と医療連携
を行っています。

当院の登録医一覧はHPで
加古川中央市民病院 開放病床登録医



検索

す。脳卒中は予防が大切であることは言うまでもないですが、もし発症してしまったら、できるだけ早く治療を始めないといけません。まずは「脳卒中かも」と疑うことが大切です。その際はすぐに医療機関に相談しましょう。